

第8次沖縄県医療計画の進捗評価について (小児医療)

令和8年 1月

沖縄県保健医療介護部

第8次沖縄県医療計画指標（小児医療分野）の進捗状況

分野	指標数	進捗状況				
		改善	横ばい	後退	未実施	その他
分野(最終)アウトカム	4	0	1	0	0	3
中間アウトカム	9	5	1	1	0	2

※基準年と比較

改善した主な指標

(1) 中間アウトカム

- 小児科医医師数（小児人口10万にあたり） R2年 100.0人（244人） ⇒ **R6年 114.3人（264人）**

後退した主な指標

(1) 中間アウトカム

- 第3次・第2次医療機関における小児救急受け入れ患者に占める入院患者の割合
R2年 8.3% ⇒ **R4年 7.3%**

1 一般小児医療を支える医療体制の充実【中間アウトカム】

指標1 小児科医師数（小児人口10万人当たり）

R2年 100.0人（244人） → R6年 114.3人（264人）

（内数）病院167人（68.4%）、診療所77人（31.6%） → 病院170人（64.4%）、診療所94人（35.6%）

・小児人口10万にあたりの小児科医師数は、沖縄県及び全国ともに基準年から増加している。

指標2 小児医療を実施する病院・診療所数（小児人口10万人当たり）

R2年 病院15.4か所 診療所69.6か所 → R5年 病院15.4か所 診療所72.6か所

指標3 診療所の医師数（小児人口10万人当たり）

R2年 31.7人（77人） → R6年 40.1人（94人）

2 小児救急医療体制の整備【中間アウトカム】

指標1 第3次・2次医療機関における小児救急受け入れ患者に占める入院患者の割合

R2年度 8.3% → R4年度 7.3%

R2年度年間受入患者数 42,031人 入院患者数 3,316人

R4年度年間受入患者数 62,210人 入院患者数 4,358人

※R4実績に小児救命救急センターである南部医療センター・こども医療センター実績を合算すると**8.1%**

指標2 災害時小児・周産期リエゾン任命者数

R3年度 0人 → R6年度 13人

※ R7年度 14人（内訳 小児科5人、新生児科2人、産科7人）

1 圏域内で完結すべき小児医療提供体制の確保【分野アウトカム】

指標1 小児中核病院から県外への搬送症例数と内容把握(県内で完結すべき小児医療症例の整理) (R6年度調査)

R6年度 小児中核病院から県外への搬送数 → 3件

➤ 県立南部医療センター・こども医療センター 3件

No.	年齢	病名	搬送先医療機関
①	0歳	新生児突発性呼吸頻拍症候群、低出生児脳室出血	産業医科大学病院（福岡県）
②	0歳	壊死性脳症	国立医療機構 呉医療センター
③	0歳	呼吸窮迫症候群、突発性小腸穿孔（FIP）	産業医科大学病院（福岡県）

➤ 琉球大学病院 0件

指標2-① 乳児死亡率（出生千対）

R3年 乳児死亡率 1.6人（23人） → R6年 乳児死亡率2.0人（23人）

指標2-② 幼児死亡数（0～4歳）

R3年 幼児死亡数 33人 → R6年 幼児死亡数 33人

指標2-③ 小児死亡数（5～14歳）

R3年 小児死亡数 14人 → R6年 小児死亡数 11人

3 在宅で療育・療養生活が継続できる医療体制の整備【中間アウトカム】①

指標1 医療的ケア児に対応できる病院・診療所数

R4年度 14施設（病院5、診療所9） → 調査中 現時点回答分R6年度 12施設（病院9、診療所3）

指標2-① 小児に対応する在宅医療支援薬局数

R4年度 在宅医療支援薬局数 58か所 → R6年度 在宅医療支援薬局数 26か所

指標2-② 訪問薬剤管理指導実施薬局数

R4年度 訪問薬剤管理指導の実施薬局数12か所 → R6年度 訪問薬剤管理指導の実施薬局数35か所

指標2-③ 訪問薬剤利用者数

R4年度 訪問薬剤利用者数 225人 → R6年度 訪問薬剤利用者数 127人

指標3 小児に対応する訪問看護ステーション数

R4年度 全県74箇所（北部5、中部27、南部36、宮古3、八重山3）
→ R6年度 全県85箇所（北部4、中部35、南部42、宮古1、八重山3）

3 在宅で療育・療養生活が継続できる医療体制の整備【中間アウトカム】②

指標4 院外関係機関も含めた退院支援カンファレンスを行う病院数（R6年度調査）

R6年度 調査中 現時点回答分 7病院

No.	医療機関名	退院支援カンファレンスに参加している関係機関
1	琉球大学病院	○県内訪問診療を行っている各訪問看護ステーション
2	県立南部医療センター・ こども医療センター	○市町村保健師 ○県保健所 ○訪問看護ステーション ○医療的ケア児コーディネーター ○相談支援事業所 ○ヘルパー事業所
3	県立北部病院	○地域保健師 ○県保健師 ○訪問看護師 ○学校 ○発達支援事業所 ○医療機関 ○地域包括支援事業所 ○医療機器メーカー担当者 ○ヘルパー ○消防署
4	県立中部病院	○地区保健師 ○訪問看護師 ○訪問診療医師 ○保健所 ○訪問リハ
5	県立宮古病院	○訪問看護ステーション ○デイケア受入施設 ○計画支援員など
6	県立八重山病院	○訪問看護ステーション ○障害児デイサービス ○教育委員会 ○障害基幹相談支援センター ○小学校 ○中学校
7	中頭病院	○琉球大学病院 ○沖縄南部療育医療センター ○沖縄中部療育医療センター ○若松病院 ○主治医を含む関係医療機関

2 こどもの状態に応じた療育・療養環境を整備するための医療提供体制が確保されている【分野アウトカム】②

指標1 訪問看護を利用した児の数（R7年度調査）

R5年 5,486人

- ・「訪問看護を利用した児の数」については、医療計画作成支援データブックを参考にしている。
- ・数値は、15歳未満の訪問看護利用者の療養費明細書の延べ件数から算出。

指標2 社会的要因による入院児数（R6年度調査）

R6年 0名

- ・「社会的要因による入院児数」については、NICUに社会的要因で半年以上入院している数を参考に指標の数値としている。（周産期医療部会の指標を参考）